

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おやの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県新潟市江南区亀田向陽1丁目8番7号
記入者名 (管理者)	川口 彰
記入日	平成 20年 9月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容、実施していない内容)	◎ <input type="checkbox"/>	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	◎ <input type="checkbox"/>	なごみ祭り開催(平成20年度)を11月30日に予定しており、準備を進めています。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容、実施していない内容)	◎印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	内部研修として研修会の実施を予定していたが、行なえていないので実施していきたい。
	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時必要書類に基づき説明し、特にリスク等について説明している。本人には体験利用をしていただき、不安のないようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で入居者から参加してもらい意見や不満がないか聞いている、本人の希望要望にはできるだけ対応できるようにその都度対応している。	
	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の近況を報告し体調変化時や急変時は電話で連絡している、金銭管理は預かり金管理規定に従い請求書送付時に毎月出納帳長のコピーを送付している。	
	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務室受け付けに自由に意見要望などを受け入れられるように意見箱を設置し、苦情窓口は玄関案内版に設置し契約時に説明している、外部者へは運営推進会議を通し行っている。	
	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にホーム長と職員全員(夜勤者除き)でフロア会議(必要時運営者同席)を開催、し意見を出せる機会を設け意見提案を反映させている。	○ フロア会議で解決しない議題等はホーム長が運営者に相談し解決を目指している、ホーム長(必要時は運営者同席)との定期的な個別の面接を設け直接意見を聞く事もある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ホーム長は、家族等の訪問が集中する土曜日曜は勿論お盆や年末年始はできるだけ勤務に入るよう勤務表を調整している。行事(外出、受診等)が重ならないよう調整している。業務上では休憩時間の変更などで対応している。	○ 私用、私傷病等フロア介護職員の急な欠勤時は欠勤対応マニュアルより、対応している。
	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム長が管理者と計画作成を兼務しており、管理者と計画作成の変更は当面はない。離職や異動がないよう配慮しているが、新規採用介護看護職員採用時は、運営法人の理念としての「心温まる介護」「心豊かな生活」「心からの笑顔」を挙げ、利用者へのダメージが少ないように努めている。	○ 新規介護看護職員採用時は、利用者職種氏名等紹介している。
	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	ホームのマニュアルは整備作成しているが、不十分な面は適宜見直しを行っている。	○ 自己学習によるマニュアルの周知徹底を図って行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○/□	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は年間計画を立てて実施している、福祉職のための外部で開催される研修には、受講が偏らないよう、順番に参加できるように組んでいる。</p>	○	<p>内部研修として研修会の実施を予定していたが、行なっていない課題があり、実施していき</p>
<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新潟県認知症高齢者グループホーム協議会に加盟し、研修等へ参加し、機会を得ている。</p>		
<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営会社の保養施設や希望者にはサッカー観戦券の配布など福利厚生充実に取り組んでいる。休憩時間は介護職員が入居者と離れて心身共に休めるスペースを確保している。運営者は機会ある事にホームを訪問しホーム長や職員の意見を直に聞き相談にのり対応策と一緒に練っている、緊急の案件は携帯電話等を通して直接相談ができている。</p>	○	<p>希望休や有給など、積極的に取れるようにホーム長でシフト作成を図っている。</p>
<p>22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は適宜ホームに訪問しホーム長や職員へ労いの言葉をかけ相談にのり、職員の熱意を引き出している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
<p>23 ○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームの見学や体験利用を通し雰囲気を感じ取ってもらい少しでも不安の解消に努めている、入居者個々に担当性を設け希望等を聞きだす努力をしている。</p>		
<p>24 ○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に面接し相談を聞いている、診療情報提供書入居事前調査申込書を参考にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	○	他サービス利用が必要な場合はその対応に努めていきたい。
	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	○	家族や知人等からの電話の支援や、書字読解機能が残存している利用者からは知人等へのハガキ作成の支援を継続していく。
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容/実施していない内容)	◎印	取り組んでほしい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>現在のところそのような関係を持つ入居者はいなかったが、必要であれば継続的にフォローしていきたい。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>日々の生活の中で表情言語などからその意向を読み取るようにし、意向の表出が困難な利用者には、安全性を重視し意向に沿うように努めている。</p>		
	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>日々の暮らしの中や日常会話で、今までの暮らし方などお聞きし家族や面会者などに話しを聞くようにし、その情報などで少しずつ把握に努めている。</p>	○	引き続き情報を得るための努力をしています
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>利用者との日々の会話、行動を見ながら利用者のできる活動としての日常生活活動能力を把握するようにしている。毎日バイタルサインチェック(1回/週は看護師)し心身状態の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>利用者家族に希望を聞きながら、必要に応じて必要な機関と連絡を取りながら作成するようにしている。</p>		
	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>サービス計画の期間に応じ見直し更新を行い、状態変化時は担当者会議を行い、新たな計画作成を行っている。</p>		

項目	取り組みの実況 (実施している内容・実施していない内容)	◎印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や過ごし方を介護日誌に記入、行事等(受診、外出)は業務日誌を使用し次の勤務者(夜勤からは早勤日勤へ日勤から夜勤へ)へ送りを行っている、連絡ノート使用しホーム内の細かい情報を共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の体調変化や家族の状況に応じ受診介助(送迎付き添い)を行い、ご家族の宿泊、食事摂取も柔軟に対応している。併設の有料老人ホームの機能訓練室活用し集団で機能訓練を行うこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内の福祉施設(障害者施設、特別養護老人ホーム)から情報提供いただき行事等参加し、消防訓練は、併設の有料老人ホームと合同で消防署職員に立ち会っていただき行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者やご家族の希望や状況に応じ、近所の美容室への外出支援や訪問理美容サービスの活用をしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの看護師より運営推進会議に参加して頂き、情報交換協力関係を築いている。	○	引き続き運営推進会議を通して連携を図っていきたい。
○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談過程と入居時に予め家族と受診医療機関について話しをしている、希望するかかりつけ医を継続してもらったり新たに専門医受診の必要がある場合は家族と相談し決めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	◎印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の状態に応じ近所に専門医があり受診を勧めたり、時には同行し相談したり指示を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携配置看護師(併設有料老人ホーム兼務)を中心に、有料老人ホームの看護職員へ相談しやすい雰囲気作り心掛けている。24時間オンコール体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関の病院と締結し備えている、入退院時には医療相談室と情報交換連絡調整等連携している。		
	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に医療連携体制に関する指針を説明、入居者の重度化看取り介護については主治医と連携を図り本人の意思を最大限に尊重すると共に家族の意向を尊重し行う旨を話している。	○	事業所のできる事できない事を家族に説明し、理解を得、取り組んでいきます。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時は医療機関と連携をとり対応している、指針あるが現在該当者がいないため取り組んでいない。	○	段階に応じ事業所のできる事できない事を家族に伝え、主治医家族と話をして行きたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	施設に移る場合サービス計画書を渡し、情報交換をしている。病院へ入院する場合も、基本情報、症状等の情報提供を行い細やかな連携に努めている。	○	引き続き、保健医療福祉の関係者と連携を行っていきます。

項目	取り組む事実 (実施している内容、実施していない内容)	○/□	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	○	引き続き希望や能力の検討をかさねながら支援してきます。
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	基本的に一日の流れはあるが体調や情動の変化等でゆっくり起床したいリビングで食事摂取したいとの希望があれば遅食対応や無理にダイニングでの食事を促さずリビングで食事を摂取して頂く等の対応を行っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	飲酒喫煙については現在要望する入居者がいない、要望があれば医学的に問題なければ配慮していく。(喫煙スペースの確保等)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	◎印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄のパターンを確認しながら、利用者のできる活動に合わせて介助支援するように努め、能力に応じた排泄用品(リハビリパンツ、パット)を活用し支援している。</p>	○	<p>引き続き、自立移動する活動を大切にしながら排泄誘導を支援していく。</p>
<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日(月曜～土曜 3回/週)や入浴時間(15:30頃～)は個々に決まっているが、日々の健康状態や情動に合わせて都度変更している、入浴を楽しんでいただけるよう入浴剤を利用している、入浴の一連の介助は当番者(運動)が対応している。</p>	○	<p>生活習慣で、入浴自体を嫌がる利用者もいらっしゃるが、入浴の大切さをゆっくりと説明し入浴していただけるようにしている。</p>
<p>58 ○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>基本的には離床を目的に日中はリビングで過ごしたり活動への参加を促し夜間入眠が図れるよう配慮している、入居者がリビングのソファや椅子、ダイニングの食席など好きな所で自由に休める環境を作っている。</p>	○	<p>冬期間はリビングにコタツを設置し、少しでも居心地の良い環境作りを行っている。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
<p>59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者個々に自由に過ごす時間があり、居室に好きな物を持ち込み楽しめるようにしている。作業療法(炊事、掃除等)を協力しながら実施し、ドライブ、外食など計画している。</p>		
<p>60 ○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭は預かり金として、家族から預かり利用者の希望する買い物がある場合、介護職員と一緒に買い物に行くようにしている。</p>		
<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>敷地内の洗濯物干し場等の庭先は遠位監視で自由に散歩できるようにしている、完全には希望に沿った対応はできていないがちょっとした散歩や外出ができるような支援を心掛けている。</p>	○	<p>洗濯物干し場等敷地内庭先は安全に散歩ができるように所在場所確認の徹底と理解協力してもらっている。</p>
<p>62 ○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>個別には対応できていないが、家族に協力いただき、自由に外出外泊できるようにしている。</p>	○	<p>個別支援の外出も居室担当介護職員が計画し一対一で希望の時に実現できるようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	◎印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎを行い何時でも使用できる公衆電話があり、希望する利用者には自由に電話が行えるよう職員が支援している、手紙の投函は職員が支援したり外出時に自ら投函できるように支援している。	○	手紙を書いている方や電話の利用希望を継続して支援する。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時は湯茶を提供し、面会時間は8時～20時と一応設定してあるがインターホンでそれ以外の面会も受けており20時以降に来訪されることもある、食事も事前に連絡を頂き同じメニューの物を一緒に食べていただく事もあり、気軽に定期的に遠方の親族が宿泊していただいています。	○	面会時間は一応設定してあるが、それ以外は引き続きインターホンで対応していく。
(4)安心と安全を支える支援			
○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限等に関するフローチャートに基づき実施。	○	家族の強い要望で一時的に夜勤時間のみ、オーバーテーブルをベッド柵に固定し使用した利用者はあるが、現在は使用していない。
○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員理解のもと玄関とリビング開錠し防犯上夜間のみ施錠している。自由に玄関やリビングの引き戸を開けたり出入りできる。	○	見守り重視で、入居者が外出する時はさり気なく付き添い一緒に行動する、あるいは声かけにて注意や気分の転換を図り職員と過ごす時間ときりかえるなどして安全を留意し自由な生活を支援していく。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ず一人の介護職員はフロアーにいて(困難時は看護師)利用者を支援し、夜勤帯は巡視をして利用者の様子を把握している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に合わせ危険なものは取り除き(家族に説明し保管)注意が必要なものは見守るなどして対応配慮している。包丁使用時は必ず見守りしている。		
○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	散薬トレーに氏名を記入個別にセットし誤薬防止を行い、誤嚥のリスクが考えられる入居者に対しては食形態を刻み食に変更し工夫している、インシデントアクシデント発生時はインシデントアクシデント報告書作成し職員の共通認識を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容、実施していない内容)	○印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>緊急時対応・連絡網、緊急時対応フローチャート、急変時マニュアル作成し周知徹底している。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て併設の有料老人ホームと合同の避難訓練を行っている。(年2回)</p>		
<p>72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>起こり得るリスクについては、入居時に説明し、家人面会時に利用者の現況について報告し相談している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
<p>73 ○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日の健康管理【血圧体温脈拍(1回/週は看護師)測定、食事量排便の有無】チェックの実施、様子の変化について気づけるようにしている、容態変化時は看護師及び併設有料老人ホームの看護職員に24時間連絡し指示を受け早期対応につなげている。</p>		
<p>74 ○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬局からの薬説明書は介護記録ファイルと健康管理ファイルケースに綴りいつでも確認できるようにしている、散薬トレーへの配薬セットはならず看護師がセットし管理し、服用時は個別生活記録でチェックしている。</p>	D	<p>散薬トレーには、シールで目印をつけミスの防止に取り組んでいる。</p>
<p>75 ○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>食物繊維の多い食材を利用したり、乳製品を摂取出来るようにしている、リビング椅子坐位でテレビ体操を行い、機能訓練に取り組んでいる。</p>		
<p>76 ○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>嗽、歯磨き、義歯洗浄など利用者の状態によって対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(◎印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量の記録を毎日行い、体重測定(1回/月)をし個々の状態を把握している、シュガーカットの甘味料や減塩等調理段階で工夫し、入浴後や食事中等声かけし水分補給をうながしている。</p>		
<p>78 ○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>利用者、ホームの全職員がインフルエンザ予防接種を接種している、マニュアルは作成し何時でも確認できる場所に備えてありそれに従い実施している。</p>	○	<p>共用玄関入り口に手洗い所を設置してあり消毒液(ヒビスコール)ペーパータオルを置き感染の予防に努めている、併設有料老人ホームの職員含め再度周知を図っていきたい、この度疥癬患者発生に伴い、疥癬対応の見直しを行った。</p>
<p>79 ○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理道具(まな板布巾台拭き)ゴトクは塩素系漂白剤で夜勤者が毎日消毒、食器は手洗い後洗浄乾燥機を使用している、食材の購入もしくは配達は概ね2日に1回行い必要以上に購入しないように努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関周りには、プランターを置き明るい雰囲気になるよう工夫し、玄関内にはベンチを置き、一休みできるようにしている。</p>		
<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには利用者が書いた作品や観葉植物を置き日当たりの良い空間から外の景色を眺めたり、季節や気候に合わせて自然の空気や光りを取り入れ季節を感じていただけるよう空間作りに努めている。</p>		
<p>82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファテーブル椅子を置き一人で新聞を読んだり、利用者家族がくつろげる空間を作っている。</p>	○	<p>時々少しだけ配置換えしより良く落ち着いて過ごしていただけるよう工夫している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	◎印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	◎	換気は感染症予防に重要なので特に注意を払い行っていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		洗濯物干し場布団干し場のスペースがあり、入居者が自由に出入りできる環境にしている、プランターの水をまいたり花を觀賞したりしている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ホーム長は機能訓練指導員の資格を有しており、併設施設の機能訓練室（平行棒）活用し集団で関節の柔軟性の回復訓練、大腿四頭筋訓練、上肢下肢体幹の筋力訓練等の訓練を行うこともあります。
- ・職員は運営法人が主催する導入研修に参加し運営会社の基本理念・接遇等について学び、導入研修で学んだ接遇の5原則『挨拶』『表情』『言葉使い』『身だしなみ』『態度』について職員一同で取り組んでいる。